

# 東西条地域センターだより

第54号

令和4年2月25日発行

東西条地域センター 〒739-0007 東広島市西条土与丸 2-3-4 TEL・FAX 082-421-2023

## 草餅を 売り尽したる 彼岸かな (子規)

もうすぐ3月、3日はひな祭り、そして5日は啓蟄です。大地があたためられ、冬ごもりしていた虫たちが穴から出てくる頃。虫だけではなく、さまざまな生き物たちが活動をはじめます。寒かった冬が去り、春の訪れを迎えます。季語の「彼岸」は、俗に「暑さ寒さも彼岸まで」という諺のように丁度気候の温和になる境目の時期で、春分の日を中心として前後各三日間、合計七日間を時候の語として適用されます。彼岸は秋にもありますが、俳句の約束では単に「彼岸」といえば春の彼岸を指し、秋は、「秋彼岸」という季語を以って区別されます。彼岸はもともと佛語であり彼岸會を修する期間を言うのです。(新編：歳時記より)



## 《市民一人、1講座・1スポーツ・1ボランティア》東西条地域センターは奨励中！！

### 「まん延防止等重点措置」での地域センター利用

新型コロナウイルス・オミクロン株の感染拡大に伴う「まん延防止等重点措置」により、地域センターの主催講座などが一部中止・延期となり皆様には大変ご不便をお掛けしました。今後とも感染対策の徹底をはかり、ご利用いただきますようお願い致します。なお 主催講座参加者に新型コロナウイルス感染症患者等が発生した場合の対応 について、感染もしくは濃厚接触者となった場合は、速やかに地域センターまでお知らせ下さい。

東広島市のコロナ感染状況は、令和4年1月は1,572人でした。また地域センターの1か月間の利用来館者は、表のように2年前の60%減の4割の利用者となりました。1月が始まって直ぐのオミクロン株の拡大は、2月に入っても学校や介護施設でのクラスター発生を起し、毎日100人近い感染者が出ています。このあと「ステルス・オミクロン株」発生でいつまで悩まされるのでしょうか。更なる感染予防対策を講じ、一日でも早くコロナのない生活に戻れるように祈るばかりです。(センター長 折羽邦彦)



#### 地域センター

##### 1月の来館者数

令和2年	1,703
令和3年	1,236
令和4年	682

### 「ウェルビーイング」という言葉 (中国新聞記事より：令和4年1月27日号)

定義：健康で幸福な状態、満足のいく状態

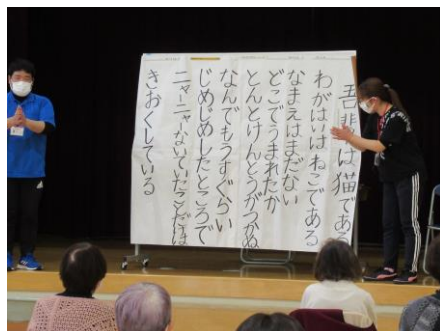
新型コロナウイルスの感染拡大によって、これまでの働き方や行動様式が大きく変化させられた。自分や家族にとって何が一番大切なのか、あらためて考えさせられる機会が増えたのではないかと。なかなか先が見通せない中、生活への満足感や充実度を指す「ウェルビーイング (Well・Being)」という言葉が注目されている。心身の健康や働きがい、社会の豊かさなどを含めた幅広い概念で、「幸せ」「幸福」などと訳されるケースが多い。(一部省略) 世界3位の経済大国に暮らしながら、国民の充足感は乏しい。「経済成長は本当の意味で社会の発展に寄与できているのか」ということが、この国でも疑問視され始めているのは間違いない。

## 《 年末～2月に開催した“地域センター主催講座の報告” 》

《 広大生が教育実習の見学で来館 》 12月25日、指導：広島大学・久井准教授  
主催講座：“響け子ども和文化”（小学生13名の和楽器演奏の練習）とセンター講座の意義。



《 知っ得！健康体操 》 1月27日、指導：高齢者相談センター・桜が丘保養園  
（9回シリーズ4回目） スタッフ含め24名で実施しました。  
（ “脳トレ体操・リズム体操・レクみんなで玉投げ” ）



《 知っ得！健康体操 》 2月24日、指導：高齢者相談センター・桜が丘保養園  
（9回シリーズ5回目） 介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、管理栄養士  
（ “デイサービスで行う更衣動作訓練など” “管理栄養士による免疫UP講座” ）

※ 《 令和4年度は15の主催講座を計画しました。3月25日回覧で全戸配付します！ 》

### 《 センター長のひとこと 》

先日、広島大学マスタース主催「SDGsと私たちの市民の生活」と題してオンラインによる市民フォーラムに参加しました。その中で東広島市の担当者から、「東広島市のSDGsについて」の報告がありました。東広島市は令和2年7月に内閣府が実施した「SDGs未来都市」に広島県内市町で初めて選ばれました。様々な施策を組み合わせることで、地域課題解決にも相乗的に効果が期待できると考えておられるようです。東広島市の活動指針が次のように示されています。

《 SDGs未来都市東広島 》 「未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市」

2030年までに次の4つのまちづくりの実現を目指します。



- ① イノベーションが生まれ、働きがいのあるまち ② 学生や外国人が定着し、活躍するまち  
③ 質の高い教育を受けられるまち ④ 環境に配慮し持続可能で住みやすく住みたくなる先端技術のまち

★ 市民の皆さん・地域の方々のやる気スイッチを入れるために、SDGsの考え方・意識変容・行動変容などについて、理解を深めなければいけないと強く感じました。生涯学習、社会教育を担う地域センターで学習を通して“人づくり・地域づくり”に力を入れていきたいと思いました。

《 社会教育は市民の学び 》

「地域づくり・まちづくり」の目標は、「人づくり」にあることを理解し、特に教育・文化・スポーツ等に重点を置き、地域センターの役割である生涯学習の推進と地域住民同士や事業者との交流・参加の機会を増やす活動推進、並びに運営管理を行ってまいります。（センター長 折羽邦彦）

# 令和2年度住民自治協議会・講演会「SDGsと環境」の報告

再掲載

報告者：事務局 折羽邦男

日時 令和3年2月14日（日）10：00～  
場所 東西条地域センター ホール  
演題 「大学と取り組むSDGs」  
講師 金子 慎治 教授（広島大学院人間社会科学研究科）



## 《 内 容 》

貧困の撲滅や気候変動対策といった17の分野について、国連が掲げている持続可能な開発目標（SDGs）の説明はとても分かりやすかった。17のゴールを色分けしたバッジを襟元につける人を多く見かけるようになった。ITやAIの進化、働き方改革や国際化、さらに新型コロナウイルスとの闘いなど、日本の社会はめまぐるしくその対応を迫られているなか、次世代へつなく“サステナブルなまち”を目指して、まちのあり方を見直すことが進められています。そうした流れのなかで、東広島市は令和2年7月に内閣府が実施した「SDGs未来都市」に広島県内市町で初めて選ばれました。様々な施策を組み合わせることで、地域課題の解決にも相乗的に効果が期待できると市長さんは考えておられるようです。

《 SDGs未来都市東広島 》 「未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市」  
2030年までに次の4つのまちづくりの実現を目指します。

- ①イノベーションが生まれ、働きがいのあるまち
- ②学生や外国人が定着し、活躍するまち
- ③質の高い教育を受けられるまち
- ④環境に配慮し、持続可能で住みやすく住みたくなる先端技術のまち

地域の方への講演会としてはSDGsの総論で分かりやすかった。また、市民のやる気スイッチを入れるための考え方・行動などにも言及され、日ごろの対応の仕方についても考えさせられました。あっという間に時間が過ぎた有意義な講演会でした。

## 《 講座終了後の感想 》

SDGsは人々の暮らしを持続可能とするためにすべての国が2030年までに取り組む行動計画です。貧困や教育、環境や経済など、17のゴールがあります。先進国が取り組まなければいけない目標はたくさんあります。また一方、すべての国が共通して取り組むべき課題も多くあります。例えば「ジェンダー平等を実現しよう」「気候変動に具体的な対策を」などといったテーマは先進国も途上国も関係なく取り組まなければいけません。「貧困をなくそう」という目標もあります。貧困問題というと、途上国の問題ととらえる人が多いでしょうが、そうではありません。日本でも「子どもの貧困」という言葉が知られています。格差は先進国と途上国の間だけでなく、日本の中にも生じています。私たち市民がコミットしないと機運が高まらないと思います。行政まかせにするのは民主主義の本質から外れると私は思います。

SDGsには「誰も取り残さない」というメッセージが込められています、裏を返せばそれは「誰もが参加しないといけない」という意味ではないでしょうか。「何ができるか」という考えも必要ですが、「何かをやりたい」と考え、できることに焦点を当てて行動したらよいのではないのでしょうか。自分たちだけが豊かになればいいというのではなく、みんなが豊かにならないといけません。日本だけではなく、世界中が豊かにならないと地球は存続しません。ただ、心配はコロナ禍で海外との関係が薄れるなか、2030年目標達成はできるのかしら？

＜ 講演会の様子 ＞

＜ 市役所電光掲示板 ＞

＜ 東広島市の宣言 ＞

